

自然観察 Now

野幌森林公園自然情報
平成23年度 特別号
平成23年5月8日発行
北海道ボランティア・レンジャー協議会

その1 木の葉の開葉の時期には違いがある

5月4日、庭の木々を見てみると、ハルニレ、キタコブシ、イタヤカエデ、シウリザクラ、シナノキ、シラカンバ、ミズナラ

などがあります。ほとんどの木々がまだ冬芽のまま。シラカンバの雄花とキタコブシの花芽が目立つくらい。そんな木々たちの中で、シウリザクラだけが赤紫色の全ての葉をいっせいに開こうとしています。（シウリザクラは他の桜と違い、葉を開ききった後の6月ごろに花を咲かせます。）

樹木は種類によって、葉を開く（開葉）時期が違います。

開葉が早い木は、ナナカマド、シラカンバ、ハシドイ、イタヤカエデなどで、5月上旬から開葉します。我が家の庭では、シラカンバやイタヤカエデより早くシウリザクラが真っ先に開葉します。

開葉が遅い木は、ニセアカシア（ハリエンジュ）、プラタナス、ヤチダモ、オニグルミなどで、5月下旬から6月上旬にかけて開葉します。

初霜が降りてもニセアカシアの木だけが落葉せず、青々とした葉をつけていることは、開葉の時期が特に遅いことと関係しているのかもしれない。



シウリザクラの花

その2 開葉の時期だけでなく、開き方にも違いがある

葉の開き方には、大きく分けて2種類あります。

一つめは、**全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプ**で、**一斉開葉型**と云い、イタヤカエデ、エゾヤマザクラ、ナナカマド、シナノキ、ミズナラなどがあります。開葉が始まると、10日くらいで新しい枝を伸ばし、全ての葉を開いてその年の体制を完成させてしまいます。葉は秋に落葉するまで枝についています。これらの木は、森林を構成する主な樹種で、少し薄暗くても育つことが出来るので、林業の言葉で弱光利用種といわれます。

二つめは、2ヶ月くらいかけて、**次々に葉を開いていくタイプ**で、**順次開葉型**と云い、シラカンバ、ケヤマハンノキ、ヤナギ類などがこのタイプで、最初に開葉した後、枝を伸ばしながら1枚ずつ葉を開いていき、8月頃まで開葉が続きます。山地の溪流沿いの開けたところ、川原や空き地など、明るく水の豊富な場所を好み、強光利用種とも云います。



イタヤカエデの葉



シラカンバの葉

次々に葉を開いていくタイプの葉は、葉の寿命がわりと短く、最初の1枚の寿命は40日くらいで、全ての葉の平均寿命でも90日くらいです。全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプの葉は、秋の落葉まで葉をつけているので、葉の平均寿命は150日くらいあります。葉の寿命が短い順次開葉型の木は、明るく、光合成が活発に出来る場所に多く、葉の寿命が長い一斉開葉型の木は、薄暗い環境に多い傾向があります。

春の森に入って観察してみましょう。

どんな木が葉を開いていますか？

葉の開き方はどちらのタイプですか？

まだ葉を開いていない木はありませんか？

その3 葉の開き方の違いは、秋の紅葉(黄葉)の仕方にも関係する

全ての葉をいっぺんに開いてしまうタイプの木は、秋には外側から色づきます。葉の寿命はほぼ同じなので、太陽の紫外線、風や寒さなどの影響を強く受ける外側の葉から色づきます。

次々に葉を開いていくタイプの木は、同じように風や寒さの影響を外側から受けるが、葉の寿命の影響をより強く受けてしまうため、内側の古い葉から色づいていきます。

今はまだ春ですが、秋に川原のヤナギの木を良く観察してみましょう。木の幹に近い内側の葉から色が変わっていきます。

観察会の予定

- 5月22日(日) 「恵庭公園観察会」 10時00分～12時00分
恵庭公園中央駐車場集合 (昼食持参自由)
- 5月29日(日) 「三角山登山観察会」 10時00分～14時00分
緑花会館登山口集合 昼食・飲料持参
- 6月 5日(日) 「森の新緑観察会」 10時00分～12時30分
野幌森林公園 自然ふれあい交流館集合 (昼食持参自由)